

スポーツイベントへの評価に関する比較研究 - ホノルルマラソン vs 指宿菜の花マラソン -

○野川春夫 菊池秀夫（鹿屋体育大学） 山口泰雄（神戸大学）
松本耕二（鹿屋体育大学大学院）

スポーツイベント マネジメント 日本人参加者 ホノルルマラソン 菜の花マラソン

1. 緒言

最近の日本国内・外におけるスポーツイベントの隆盛には目を見張るものがある。スポーツイベントにはオリンピックや陸上ワールドカップのようにエリート選手がパフォーマンスを競う競技会と、地域社会の活性化や市民の健康増進などを目的として一般大衆が参加する生涯スポーツ大会に分けられるであろう。エリート競技会と生涯スポーツ大会の二極化が進むなか、『ふるさと創生』事業のテコ入れにより一般大衆を対象にした地域レベルの多種多様なスポーツイベントが増え続けている。

一方、膨張を続ける海外旅行にともない海外スポーツイベントへの一般大衆の参加も着実に伸びている。それと並行するように、数件の死亡事故にも関わらず、スポーツイベントを海外旅行市場に積極的に組み入れてビジネスを展開する企業が増加している（Sports Industry: 1991）。

このように国内・外においてスポーツイベントが増加するにつれてイベントの競合が必然的に起こるのであろう。スポーツイベントがスポーツの振興のみならず、地域社会に与える社会的・経済的効果が大きいことから、競合上有利な立場を占める努力がイベント開催者に求められよう。特にイベントマネジメントに対する参加者の客観的な評価をきちんと把握することがイベント存続にとって重要なポイントとなろう。しかしながらこの分野に関する研究はまだ萌芽期の段階にあることから、本研究では国内及び海外スポーツイベントのマネジメントに対する参加者の評価について実証的な知見を得ようとするものである。従って、本研究の目的は、地域活性化に成功している代表的なハワイ・ホノルルマラソンと指宿・菜の花マラソン大会を事例として、大会に参加した日本人のイベントへの評価を明らかにし、比較分析することであった。

2. 先行研究の検討

スポーツイベントに関する研究は、山口ら（1990, 1991）の高齢者を対象とした生涯スポーツイベントを除き、大多数がランニングイベントを対象としている。日本国内市民マラソンイベントの参加者を対象とした研究はいくつかみられるが（有吉ら:1984, 重田ら:1985, 林ら:1983）、いづれもパフォーマンスやランニングに対する意識を取り扱ったものである。イベントのマネジメントに関する実証的研究は非常に少ないが、本研究者らは菜の花マラソン大会のマネジメントを多面的かつ縦断的な調査を続けている。

また海外スポーツイベントへの日本人参加者に関する研究では、対象イベントがホノルルマラソンがほとんどで参加者の満足度（松本ら:1990）、や参加意識（塩満:1990）、および日米ランナーの参加意識と属性の比較（山田ら:1988）などが報告されている。

このように国内・外のスポーツイベントに関する研究はされているが、スポーツイベントの規模や形式、時期的などの比較基準を一致させた比較研究は未だなされていないのが実状である。

3. 研究方法

1) サンプル:

- ・ “第10回指宿・菜の花マラソン” フルマラソンの部の日本人参加者111名
- ・ “第19回ハワイ・ホノルルマラソン” の日本人参加者377名

2) 調査期日:

- ・ “第10回指宿・菜の花マラソン” : 1991年1月 8日(日) 9:00~15:00
- ・ “第19回ハワイ・ホノルルマラソン” : 1990年12月10日(日), 11日, 12日 6:00~12:00

3) 調査場所および調査方法:

- ・ “第10回指宿・菜の花マラソン” : 鹿児島県指宿市総合運動公園においてゴールインした参加者を完走時間別に有意に抽出し、質問票を持った15名の調査員がサンプルの合意の上で約15分間の直接面接調査を行った。
- ・ “第19回ハワイ・ホノルルマラソン” : 米国ハワイ州ホノルル国際空港日本向け帰国便搭乗待合室及びその周辺において、4名の日本人調査員が質問票を用いて個人及び小集団に面接調査を実施した。

4) 調査内容:

両調査とも調査内容は基本的には同じであり、サンプルの個人的属性、運動習慣、イベント運営に対する満足度、スポーツイベントに対する満足度、参加のきっかけ、及び当該イベントへの再参加の希望などを網羅した。

イベント運営に対する満足度、及びイベントへの再参加の希望の項目の回答はLikert-scale typeの4点評定法を用いた。

5) 分析方法:

収集したデータは項目別に単純集計を行い、主な項目をイベント別(菜の花マラソン vs ホノルルマラソン)にクロス集計を行った。なお、イベント運営に対する満足度に関しては、「満足」を「高い評価」、「やや満足」を「中程度」、「やや不満足」と「不満足」を「低い評価」と解釈した。

4. 結果の概要

有意に抽出した日本人サンプル488名のスポーツイベントのマネジメント9項目に対する評価をイベント開催地別に分析した結果、次のことが明らかになった。

成功を収めているスポーツイベントは、国内・海外の開催地を問わず「ボランティアの対応」とボランティアが参加者ともっとも触れ合う「給水・ドリンクサービス」に対して突出して高い評価が与えられており、スポーツイベントに占めるボランティアの重要性が窺える。これに対してサンプルが厳しい評価を下していたのは「トイレの設置場所と数」であり、スポーツイベントには共通の急所といえよう。

菜の花マラソンのサンプルが「マラソンコース」に低い評価を持っていたのに対し、ホノルルの参加者は「大会のスタート時間」を低く評価していた。菜の花マラソンのコースは、高低差が115mもあり、しかも急な登りと下りが多いコースで好タイムが出にくい。ホノルルマラソンのスタート時間は早朝の5時30分なので集合が夜中になるからである。

発表当日には、補足資料を加えて、より詳細な報告と検討を行う。